

PRESS RELEASE 2016年9月7日

国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭 連携事業
**アジアに向けた新たな日本映画市場を創造する
 総合プラットフォーム事業が始動！**



国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターは、東京国際映画祭(Tokyo International Film Festival:以下、TIFF)と連携して、アセアン諸国全体で日本映画への興味・関心を喚起し、鑑賞者数増加を実現するための日本映画総合プラットフォーム「JFF (Japanese Film Festival: 日本映画祭) アジア・パシフィック ゲートウェイ構想」(以下、JFF構想)を、2016年度より開始しました。

アジア・パシフィック、特にアセアン諸国における日本映画の発信力が弱いといわれて久しい昨今、大きな要因として、官民挙げての発信戦略とシステムの不足、アセアン諸国全体における日本映画への関心の低さに起因した市場規模の小ささが挙げられます。これまでも国際交流基金ではアセアン諸国で日本映画祭を実施してきましたが、各国間を連動させた包括的なブランド構築には至っていませんでした。こうした状況を変革するために、JFF構想では、「アジア・パシフィック市場と日本映画との包括的な架け橋を担う仕組みを構築する」というビジョンの下、オンライン、オフラインの両面から、「日本映画を通して人々が集い楽しむ場」を構築し、基本となる3つのスキーム①対象国実施の日本映画祭とのネットワーク強化、②ファン参加型のPRイベント、③オンライン・プラットフォームの構築、それぞれを相互に連動させ、日本映画への認知度と関心を高め、新たな日本映画市場を創造します。将来的には、強い集客力を持つ日本映画総合プラットフォームへと成長させ、日本映画だけでなく、アジア・パシフィックの映画産業全体の活性化に繋げることを目指します。

基本スキームの詳細については、次頁以降をご覧ください。

JFF (Japanese Film Festival: 日本映画祭) アジア・パシフィック ゲートウェイ構想

■概要

アジア・パシフィック映画市場と日本映画との包括的な架け橋となる仕組みを構築し、強い集客力を持つ日本映画総合プラットフォームへ成長させ、ひいては広くアジア・パシフィック映画産業全体の活性化を実現する。

- 【実施期間】 2016年4月1日～2017年3月31日(以降、2020年度まで継続予定)
- 【実施(対象)国】 アセアン10か国及び豪州(今後アジア地域で対象国を拡大予定)
- 【主催】 国際交流基金アジアセンター及び対象国の国際交流基金海外拠点
- 【協力】 東京国際映画祭
- 【基本スキーム】 ①JFFアジア・パシフィック ネットワーク(対象国実施の日本映画祭とのネットワーク強化)
 ②JFFアジア・パシフィック ファン参加型PRイベント
 ③JFFオンライン・プラットフォーム構築

JFFアジア・パシフィック ゲートウェイ構想(JFF構想)

■3つの基本スキーム

JFF構想の第一段階として、日本映画祭を単なるひとつのイベントとしてではなく、ひとつのブランドとして、各国の観客や映画関係者が親近感を持ち、関心を高める内容となるよう、以下3つの基本スキームを相互連動させ、ひとつの大きなプラットフォーム展開を目指します。まずは対象国全域で10万人以上の「日本映画ブランド関心層」の獲得、そして将来的には2020年の東京オリンピック開催時に100万人達成を目標に、常に新しいアイデアを取り込みながら、JFF構想をアジア・パシフィック地域へと広く展開してまいります。



1. JFFアジア・パシフィック ネットワーク(対象国実施の日本映画祭とのネットワーク強化)

国際交流基金アジアセンターでは、国際交流基金の海外拠点及び在外公館と連携し、対象国11か国(アセアン10か国及び豪州)で日本映画祭を実施し、各国の独自性をいかしつつ、一貫したマーケティングと運営方法で「JFFブランド」としてネットワークを構築する。

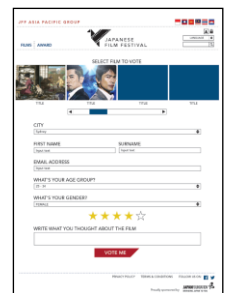
2. JFFアジア・パシフィック ファン参加型PRイベント

日本映画ファンとの絆を深め、さらに認知拡大を目的に年1回対象地域の中から1都市を選び、ファン参加型のPRイベントを開催。第1回目は、日タイ修好130周年事業として、2017年2月頃にタイ(バンコク)での開催を予定。



3. JFFオンライン・プラットフォーム構築

「日本映画を通して楽しく人が集える場」として、各国共通オンライン・プラットフォーム(ウェブサイト・SNS・アプリなど)を開発し、ファン参加型のサービスを提供。英語を共通言語とした総合サイト(10月6日公開予定)と、各国言語に対応したローカルサイト(順次公開)を連動させ、一貫したメッセージは保ちつつ、各国のファン層に応じて切り口を変えた日本映画の紹介コンテンツを制作・発信する。これにより、顕在層(日本文化や日本映画のファン)と潜在層(ニーズが明確でない一般層)の両面へ向けての施策を練り、日本映画のみならず、アジアセンターの活動への理解を促進する。



上：ポスターイメージ
中・下：ウェブサイトイメージ

◇総合サイト(10月6日公開予定)URL：<http://www.japanesefilmfest.org/>

【国際交流基金アジアセンターについて】<http://jfac.jp/>

独立行政法人国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、全世界を対象に総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。アジアセンターは2014年4月に設置され、ASEAN諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。日本語教育、芸術・文化、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野での交流や協働を通して、アジアにともに生きる隣人としての共感や共生の意識を育むことを目指しています。

【東京国際映画祭(Tokyo International Film Festival, TIFF)】<http://www.tiff-jp.net>

東京国際映画祭(以下、TIFF)は日本で唯一の国際映画製作者連盟(注1)公認の国際映画祭です。1985年、日本ではじめて大規模な映画の祭典として誕生したTIFFは、日本及びアジアの映画産業、文化振興に大きな足跡を残し、アジア最大級の国際映画祭へと成長しました。いまや最も熱気溢れるアジア映画の最大の拠点である東京に、世界中から優れた映画が集まり、国内外の映画人、映画ファンが新たな才能とその感動に出会い、交流する場を提供します。2016年第29回東京国際映画祭は、10月25日(火)から11月3日(木・祝)まで、六本木ヒルズ、EXシアター六本木(港区)ほかにて開催。

(注1)国際映画製作者連盟:世界の映画産業、国際映画祭の諸問題を改善、検討する国際機関。パリに本部を置き、世界30か国(2016年3月現在)が加盟している。

■2016 年度 各国上映の主な作品ラインナップ ※出品作品は地域によって異なります。



家族はつらいよ



クレーピー 偽りの隣人



殿、利息でござる！



ちはやふる



モヒカン故郷に帰る



バケモノの子



TSUKIJI WONDERLAND



ビリギャル

©2016「家族はつらいよ」製作委員会 ©2016「クレーピー」製作委員会 ©2016「殿、利息でござる！」製作委員会 ©2016 映画「ちはやふる」製作委員会 ©末次由紀/講談社 ©2016「モヒカン故郷に帰る」製作委員会 ©2015 THE BOY AND THE BEAST FILM PARTNERS ©2016 松竹 ©2015 映画「ビリギャル」製作委員会

■2016 年度映画関係者派遣

第1弾 マレーシア日本映画祭に樹木希林さん登場！

「JFF (Japanese Film Festival: 日本映画祭) アジア・パシフィック ゲートウェイ構想」の一環として、9月6日(火)にマレーシア・クランバレーで「JAPANESE FILM FESTIVAL 2016」のオープニングセレモニーが開催されました。これに、女優の樹木希林さんが同日に上映された映画『海よりもまだ深く』の出演者として出席。樹木さんの出演作はマレーシアでも多く上映されており、会場には多くのファンが詰め掛けました。映画祭に来たマレーシアのファンを前に、樹木さんは、「今回、日本の片隅で生きている親子の映画に出させてもらいました。出来の悪い息子を持つ母親の役ですが、そうだと思いたくないんですね。誰でもそうでしょうけど、母親にとって息子は本当にかわいいという、そんな気持ちで演じました。面白く見てください。」と語りました。また翌7日(水)には、主演映画『あん』特別試写会のゲストとしても登場し、観客から寄せられた多くの質疑応答に応じるなど交流を楽しみました。



セレモニーの様子

今後の主な映画関係者派遣(予定)

■オーストラリア日本映画祭: 本木雅弘さん、西川美和監督

【日程】11月27日(日)、28日(月)

【場所】シドニー、メルボルン

【作品】『永い言い訳』

※他映画関係者派遣については、順次発表してまいります。



©2016「永い言い訳」製作委員会 10月14日(金)全国ロードショー